

第38回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事録

●平成26年12月16日(火) 10:00～12:00、桶川市農業センター

【議事結果】

- モニタリング結果の公開方法について了承する。
- 広報活動については、自然再生活動に支障を来すものでなければ、非公式で小さなものをどんどん始めていくことを了承する。

【主な議事内容】

◎協議事項

●第37回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録
(質疑応答無し)

●生態系モニタリング専門委員会の活動

- ・ モニタリング結果の公開方法の提案について了承する。
- ・ 専門家からのオファーがあった場合の情報提供方法は未検討であり、学術論文あるいは詳細な研究の目的のための情報の公開・非公開は今後必要に応じて検討する。
- ・ 情報の公開・非公開を検討する必要があるのは、盗掘や類似の行為があるからである。太郎右衛門においては、環境教育を説明する人を配置することが非常に重要である。保護がきちんとできるのであれば全部公開することが望ましい。
- ・ 重要種に限らず、セリ摘みやシノ取りなどを今まで継続してやっている人たちがかなりいるので、そのような人たちに対する環境教育をどうするのか、そのような行為を許容するのか全てご遠慮いただきたいという方針にするのかも検討する必要がある。
- ・ 両生類が調査未実施となっている理由は何か。
→産卵期の2月を予定している。
→両生類は産卵時期がその年によって随分ずれるので、予定時期の調査で確認されなかった場合は何回か見ていただきたい。
- ・ 下池の『湿地』が乾燥化していると判断した理由は何か。
→植生の状況から判断した。

●維持管理・環境管理専門委員会の活動
(質疑応答無し)

●広報WGの活動

- ・ イベントに大学の学生さんに参加してもらうには、学長への手紙が有効である。高校生についても講義の機会をうまく使えば集められる可能性がある。
- ・ 今の協議会メンバーは年齢層が高いため、違った感覚を導入するために若いプロを活用していきたい。

- ・ 活動を円滑・活発にするためには現地に拠点が欲しい。
- ・ 学生さんたちに参加してもらうにあたっては教育的側面の議論がある。指導する側の主義主張に従う展開を統一する必要はないと思うが、現地の保全ということも含めて、どんな教育カリキュラムを展開するかという議論が必要だと思う。
- ・ 大学生、企業、退職した高齢者などに応じてカリキュラムを作って積極的に呼びかけていくと良い。力仕事に慣れている企業が協力してくれると助かる。
- ・ 幼稚園や小学校低学年の子どもたちもなかなか自然に触れる機会がないので、機会を作ってあげたい。
- ・ 大学では地域貢献でボランティアに単位を与えているところに参加してもらえると良い。
- ・ 指導者を育成していく必要がある。外から来た人たちに現地を案内できるような組織ができると良い。一般の人はおもしろく説明してくれるガイドがいると集まる。
- ・ 活動を長続きさせるために、ここの地形を生かした風景、新しい風景をつくってもらいたい。
- ・ 大がかりなことは半年ごとに何か決めるようになってしまうので、自然再生活動に支障を来すものでなければ、小さなものからどんどん始めて良いのではないかと。
→非公式で集まってアイデアを具体化して誰かが手を挙げて動くことと良い。
→全部公式では事務局の対応が大変なので、非公式で動くことで良い。
→ホームページのアクセスが少ないので、ブログやフェイスブック、ツイッターを非公式で始めても良いのではないかと。
→非公式の活動をやっていくことを了承する。

●工場の状況と予定について

(質疑応答はなし)

●平成 26 年度のスケジュール

(質疑応答はなし)